

夏の甲子園 2

令和 4 年 8 月 1 6 日

何気なくニュースサイトを見ていると、現代ビジネス web 版の

「せっかく甲子園で優勝したのに…

閉会式での行進を拒否した学校の『意外過ぎる理由』

という記事が目にとまりました。これはもしかしてと思い、記事を読んでもみると、本校前身の神戸一中が 103 年前の 1919 年（大正 8 年）に行われた第 5 回全国中等学校優勝野球大会（現在の夏の甲子園大会）で初出場・初優勝を飾ったときの話でした。

この話は PTA 会報第 63 号（昭和 62 年 4 月）にも優勝した際の朝日新聞の記事とともに掲載されています。記事には、優勝旗授与式のあとに恒例の場内一周を要請されたとき、「われわれは死力を尽くして目的に到達した。今は休養したいだけ。このうえ、見世物になりたくない。」と断ったとあります。その後選手達は楠公さんに参り、夜の 9 時に帰校しました。（当時学校は中央区二宮町、生田川沿いにありました）現在、優勝旗は芸術館 2 階記念ホールに飾られています。

当時の一中生の気概が現われている出来事です。本校には四綱領「質素剛健」「自重自治」があります。質素剛健な生活態度、自らの使命を重んじ、自らを治めることを追求する姿勢を持ち続ける、先輩方の言動の中に四綱領の精神を改めて感じることができました。



朝日新聞の記事より